

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

その中でも、国際社会青年育成事業は、昭和34（1959）年度に上皇上皇后両陛下の御成婚記念事業として開始した「青年海外派遣事業」と、昭和37（1962）年度に開始した「外国青年招へい事業」について、天皇皇后両陛下の御成婚を記念し、平成6（1994）年度に「国際青年育成交流事業」として改組したものを、令和元年（2019年）のお代替わりを契機に更に発展させた歴史ある事業です。本事業は「日本青年海外派遣」及び「外国青年日本招へい」により構成され、この相互交流の形態になってから30年近くにわたり、諸外国との友好の絆を深めるとともに、国内外約4,000名の青年の育成に貢献してまいりました。世界的な社会課題をテーマに設定し、日本及び交流国でのディスカッションや文化紹介等の青年間の交流に加え、施設訪問やホームステイ等を実施することで、国際社会で指導性を発揮し、社会貢献活動に寄与する青年を育成することを目的としています。

今年度は4年ぶりに、「日本青年海外派遣」及び「外国青年日本招へい」の双方を実施しました。事業では、「ITの活用」と「災害・気候変動問題への対応」をテーマとして設定し、それぞれ、「ITの活用」はエストニア共和国、「災害・気候変動問題への対応」はドミニカ共和国で派遣国活動を行いました。また、帰国後の国際青年交流会議では、「ITの活用」はエストニア共和国及びデンマーク王国、「災害・気候変動問題への対応」はドミニカ共和国及びペルー共和国の青年達と共に交流活動を行いました。直接顔をあわせ、議論、交流する意義は言うまでもなく、青年にとって国際協調の精神や、国際社会で活躍するための実践力を学ぶかけがえのない経験になったと確信しています。

本書は、令和5（2023）年に実施した第2回国際社会青年育成事業のうち、日本青年海外派遣の諸活動を記録したものです。本書を通じて、本事業の内容や成果を御理解いただく際の一助となれば幸いです。

また、本事業に参加した青年が事業終了後においても、事業で得た知識や経験、ネットワークを活かし、国際交流活動や社会活動に取り組むことは非常に意義深いことであり、青年の今後のますますの活躍を願っています。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた交流国政府、日本及び交流国の関係団体、訪問施設等の皆様並びに地方公共団体の関係各位に心から御礼申し上げます。

令和6年3月
内閣府青年国際交流担当室長
由布 和嘉子

はじめに

国際社会青年育成事業は、昭和34年（1959年）に上皇皇后陛下の御成婚記念事業として始まった「青年海外派遣事業」と、昭和37年（1962年）開始の「外国青年日本招へい事業」を、天皇后陛下の御成婚を記念して平成6年（1994年）に「国際青年育成交流事業」と改組し、令和元年のお代替わりを契機に更に発展させたものである。

本事業は、①世界的な社会課題をテーマに設定し、当該テーマに取り組む2地域4カ国の青年と、当該テーマに関わる分野に従事している、または関心を有する日本参加青年が、マルチ・ケース・スタディを行うことにより、世界共通の社会課題の解決に貢献する青年を育成すること、②日本と諸外国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、青年の国際的な視野を広げ、国際協調の精神をかん養し、国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮し、社会貢献活動へ寄与する青年を育成すること、を目的とする。なお、本事業は「日本青年海外派遣」及び「外国青年日本招へい」により構成される。

I 令和5年度国際社会青年育成事業の概況

令和5年（2023年）は、エストニア共和国に10月6日から10月15日までの10日間、ドミニカ共和国に10月5日から10月15日までの11日間、日本参加青年計22名を派遣するとともに、同2カ国にデンマーク王国、ペルー共和国を加えた4カ国の外国参加青年計32名を10月15日から10月25日までの11日間、日本に招へいた。

II 日本青年海外派遣

(1)参加青年の募集・選考・決定及び派遣団の結成

日本参加青年は、「ITの活用」をテーマとするエストニア共和国派遣団（団長1名、副団長1名、渉外1名及び参加青年10名）と「災害・気候変動問題への対応」をテーマとするドミニカ共和国派遣団（団長1名、副団長1名、渉外1名及び参加青年12名）の合計28名で構成された。参加青年については、書類による第1次選考の後、個人面接及び英語面接（テーマに関する分野に従事する者については日本語のグループ面接）による第2次選考を経て決定した。

また、参加青年の選考と並行して、中田昌和内閣府青年国際交流担当室国際調整官をドミニカ共和国派遣団団長に任命した。また、エストニア共和国派遣団団長と各副団長を別途委嘱した。

(2)事前研修

7月5日から8日までの4日間、日本参加青年は、日本・韓国青年親善交流事業（日本青年韓国派遣）の派遣団とともに、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、合宿による事前研修に参加した。その後、7月16日及び23日には、オンラインによる事前研修に参加した。

これらの研修は、本事業の趣旨及び目的を十分に理解し、参加青年としての心構えを養うとともに、訪問国の諸事情等についての認識と理解を深めることを目的として実施したもので、在日大使館の表敬訪問を始め訪問国事情、ディスカッションテーマに関する講義のほか、団の目標や団員の役割分担の決定、日本文化紹介などを検討する団別研修も行われた。

事前研修終了後、参加青年は出発までの約2カ月の自主研修期間中、勉強会の開催、各国のテー

マに沿った関係諸機関への訪問やヒアリング等各訪問国での活動準備に励んだ。

※研修日程については「第3章 資料編」参照。

(3)オンライン交流

ドミニカ共和国派遣団は、9月2日にドミニカ共和国とペルー共和国の参加青年と、エストニア共和国派遣団は、9月3日にエストニア共和国とデンマーク王国の参加青年と、オンラインにて交流した。この交流は本事業に参加する日本参加青年と外国参加青年とが初めて顔を合わせる場となった。お互いを理解するとともに、参加者間の信頼関係を築き交流を深めることを目的に、ファミリーレーターの下、アイスブレイクやグループ別の各国紹介、テーマに関する意見交換等を行った。

(4)出発前研修及び昼食歓送会

日本参加青年は、10月4日から5日までの2日間、ホテルマイステイズプレミア成田にて出発前研修に参加した。この研修は、各訪問国での活動へ向けた最終的な準備、確認等を目的として実施された。10月5日には昼食歓送会が開催され、参加青年は由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長から激励を受け、出発に向けて士気を高めた。

※各訪問国における活動等については「第2章 日本青年海外派遣」参照。

(5)国際青年交流会議

10月16日から19日までの4日間、青年国際交流の一層の発展を促すことを目的に、「国際青年交流会議」がホテルマイステイズプレミア成田にて開催された。日本と外国の参加青年が一堂に会する場であり、日本、エストニア共和国、デンマーク王国、ドミニカ共和国、ペルー共和国の5カ国の青年が集まった。交流会議では「ITの活用」、「災害・気候変動問題への対応」の2テーマに関連する施設を訪問しディスカッションを行ったほか、文化交流会では自国の伝統文化を紹介した。

それぞれのテーマに対する各国の状況や考え方について相互理解を深めるとともに、国際社会におけるディスカッション技術の習得につながった。



国際青年交流会議での全体オリエンテーションの様子

(6)帰国後研修

日本参加青年は帰国後、10月20日から21日までの2日間、ホテルマイステイズプレミア成田において、帰国後研修を受けた。この研修では、派遣事業を振り返って自己の成長を見直す機会を持ち、活動成果を取りまとめたほか、事業終了後の活動の説明を受けた。

(7)事業報告会

日本参加青年は令和6年2月17日、オンライン形式の事業報告会で、活動報告や参加したことによる学びの成果等について意見交換を行った。日本参加青年の中から選出された8名の実行委員は、事業報告会の企画及び当日の運営を担った。



事業報告会の様子

(8)事後活動と日本青年国際交流機構

これまで本事業により海外へ派遣された青年は全国各地に在住しており、各自の所属する地域や職場等において、海外で得た知識や体験をいかして活躍する一方、経験者の事後活動組織である「日本青年国際交流機構」(International Youth Exchange Organization of Japan、IYEO)に所属し、その活動の幅を広げている。

IYEO の主な活動は、外国参加青年の受入れ、ホームステイの引受け、国・地方公共団体等の青年国際交流事業あるいは青少年健全育成関係事業への協力、海外広報の普及、研究協議会の開催等多岐にわたっている。会員数は約 10,000 名に及んでいる(令和 6 年 2 月時点)。

IYEO での活動を含め、本年度の日本参加青年が今後、積極的に事後活動を行うことが期待される。

Ⅲ 外国青年日本招へい

10 月 15 日から 10 月 25 日までの 11 日間、エストニア共和国、デンマーク王国、ドミニカ共和国、ペルー共和国の 4 カ国、32 名の外国参加青年を日本に招へいした。

一行は 10 月 16 日から 19 日までの 4 日間、日本参加青年と共に、成田において国際青年交流会議に出席した。

※会議内容については、「(5)国際青年交流会議」参照。

その後、外国参加青年は 10 月 20 日から 23 日の間、2 グループに分かれ、エストニア共和国とデンマーク王国の青年は「IT の活用」をテーマに和歌山県を、ドミニカ共和国とペルー共和国の青年は「災害・気候変動問題への対応」をテーマに岩手県を訪問し、各テーマに関する施設訪問、地元青年とのディスカッション、文化交流等の各種活動を行った。

10 月 24 日には、東京において歓送会、都内視察を行い、翌 25 日に帰国の途についた。



歓送会での外国参加青年の様子

※日本国内における活動の詳細は、別冊の「国際社会青年育成事業(外国青年招へい)」参照。

目次

序	
事業概要	1
写真で見る事業概要	6
第1章 事業の総括評価	11
第2章 日本青年海外派遣	15
第1節 エストニア共和国派遣	15
行動地図	16
行動記録	17
訪問先一覧	21
団長報告	25
参加青年代表報告	30
ディスカッション成果	37
第2節 ドミニカ共和国派遣	63
行動地図	64
行動記録	65
訪問先一覧	69
団長報告	75
参加者青年代表報告	80
ディスカッション成果	88
第3章 資料編	101
参加者名簿	102
事前事後アンケート	104
研修日程	111
実績	115